

No	ページ	委員意見			対応(案)	委員
		修正箇所	修正内容	修正理由		
1	目次 12-1	目次及び12-1表題。	右記の通り。	「IVあとがき」とあるが、12-1のページには記載がない。目次と該当ページで整合が取れるように修正をお願いします。	12-1の前に「IVあとがき」の表紙ページが漏れていたのを追加します。	吉村
2	全体	事業進捗状況の事業費の金額単位 (P1-3, 2-3, 3-2, 4-3, 5-2, -2, 7-2, 8-3, 9-2, 10-3, 11-2)	④修正理由を参照願います。	各事業の事業費の単位が「万円」。 一方、「事業費実績及び進捗状況一覧(P0-8)」では金額の単位が「千円」。 合っていないのでどちらかに統一すべき。 個人的には「千円」の方が一般的なので、各事業の事業費の単位を「千円」に訂正すべきと思います。	急に単位が変わると過去の点検結果報告書と比較がしづらくなるため、令和8年度までは現行通り「万円」と「千円」の両方を使用する想定です。 令和9年度以降の点検結果を作成する際に、単位について検討します。	田島
3	0-8	全体の総括	—	全体総括において、森林塾に関して触れた記述にしてもよいのではないかと。	提案のとおり、全体総括において森林塾に関する記述を追記します。	吉村
4	1-1	【目標】上から2行目 私有林25,800haを確保し、延べ54,000haを整備する	①私有林25,800haを確保し、延べ54,000haを繰り返し間伐整備する または ②延べ54,000ha（間伐の繰返し実施後の面積）を整備する	間伐を繰り返し行うという意味で「延べ」と使用していることを、前回県民会議で知りました。 説明を受けると理解できるのですが、「延べ」と読んだだけでは理解できません。 説明を付加する必要があると考えます。 (2025年12月25日の県民会議資料3-1の事業概要の内容で同じく「延べ54,000ha」の記載があり、こちらにも説明を付加したほうがよさそうに思います。古館委員も指摘しているといわれていましたが、検討をお願いします)	提案のとおり、「延べ」の意味が分かるように修正します。	岡田
5	1-3	(3) かながわ森林塾の実施 上から1行目冒頭 「森林塾は応募数、就業者数ともに減少傾向にある」	—	現報告書での修正の指摘ではなく、施策へのコメントです。 この森林塾の募集要項をみると、募集対象は54歳未満となっています。働き盛りの人たちを対象にしたい気持ちは理解できるのですが、減少傾向ということは、一定のニーズはあるものの転職という壁のハードルが高いのだと思います。 一般的に定年は60歳～65歳。この第2の人生を迎える世代もターゲットにくわえるのはどうでしょうか。いやおうなく、これからの人生設計を考える時期でもあり、ニーズは高いと思います。相続した森林をどうするかを考える世代でもあります。この層をはずすのはもったいないのではないのでしょうか。 人生は長く、80歳くらいまでは働けます。定年前後55歳～67歳程度を対象にしても15年程度は余裕で働ける計算です。 ぜひ、一考を期待します。	ご意見は参考とさせていただきます。	岡田
6	1-3	「(3) かながわ森林塾の実施」の総括	右記の通り。	受講者が近年減少傾向にあることの背景情報や理由などを書き足したほうがよいのではないかと。	指摘のとおり森林塾の総括の部分に背景や考えられる理由を追加します。	吉村
7	1-4	「事業モニタリング調査結果」の「調査結果の概要」において、 「調査地のスギ・ヒノキ等の成立本数は、水源林整備が目標とする500本/ha前後まで低下していた」とある。	④修正理由を参照願います。	1. 「500本/ha」が唐突に出てきた感じがある。また、次葉(P1-5)のグラフでもその数値が読み取れない。「水源林環境が目標とする500本/本」の根拠を具体的に記載をお願いしたい。 (神奈川県環境農政局緑生部水源環境保全課発行『水源林整備の手引き(平成29年3月)』にも記載はあるが) 2. P1-5のグラフでその数値がどのように関係するのかを追記いただきたい。	1 提案のとおり修正しました。 2 グラフと1-4「調査結果の概要」との関係が分かるように修正しました。	田島
8	2-1	(3) 県民連携・協働事業 丹沢大山国定公園と県立丹沢大山自然公園（普通地域を除く）では、これまで県民と連携・協働により取り組んできた、登山者が集中する登山道の維持補修や過去に山中に埋没されたゴミの収集・撤去、山小屋等に設置されている浸透式トイレの環境配慮型トイレへの転換の支援などの活動を継続する。大綱期間終了後も、長期的に県民連携や協働活動による丹沢大山の保全・再生を目指す活動が継続されるよう、取組を充実させていく。	(3) 県民連携・協働事業 丹沢大山国定公園と県立丹沢大山自然公園（普通地域を除く）では、これまで県民と連携・協働により取り組んできた。年間50万人に達する登山者による踏圧から水源森林の下層植生を守るため登山道の維持補修、過去に山中に埋没されたゴミの収集・撤去、山小屋や避難小屋等に設置されている浸透式トイレの環境配慮型トイレへの転換の支援などの活動を継続する。大綱期間終了後も、長期的に県民連携や協働活動による丹沢大山の保全・再生を目指す活動が継続されるよう、取組を充実させていく。	具体的に首都圏から登山者が集中する現状、水源森林の下層植生を傷めるのは踏圧で凹んで歩きにくくなった登山道からはみ出て歩く登山者の踏圧である原因を伝える記述を加えた。水源林下層植生を守るために、県民協働事業で踏圧に耐える登山道（石詰め補強や木道設置）を行っている。 民営山小屋だけでなく、県設置の避難小屋にもトイレが設置されており、両方とも環境配慮型トイレに転換させていく必要があるため。	事業概要部分は、実行5か年計画から抜粋しているため、原則修正はしません。	太幡

No	ページ	委員意見			対応(案)	委員
		修正箇所	修正内容	修正理由		
9	2-1	(3) 県民連携・協働事業の全文	④修正理由を参照願います。	令和5年度実績版と変更がない。これではまったく実行されていないと読み取られるおそれがある。 「山小屋等に設置されている浸透式トイレの環境配慮型トイレへの転換の支援」の計画と実績を示していただきたい。 一方、エリアは幾分異なるが堂平や「やどりき水源林」等登山道コースになっているにもかかわらずトイレがまったくない(または故障中)という場所もある。現在のままであれば排泄物による森林環境への悪影響や富栄養化が進んでしまう。早期に進めていただきたい。	事業概要部分は、実行5か年計画から抜粋しているため、修正は想定していません。 「山小屋等に設置されている浸透式トイレの環境配慮型トイレへの転換の支援」については、市町村への補助事業として実施しているところ、現在市町村からの申請がない状況です。 なお、いただいたご意見については市町村に情報共有します。	田島
10	2-2	下から6行目 「…薬剤樹幹注入を使用する手法を検討した…」	「…薬剤樹幹注入する手法を検討した…」	(2) 「注入」と「使用する」の行為が重複しているため	「適切な時期に使用する薬剤樹幹注入手法を検討した」に修正します。	古館
11	3-4	一番下の*の部分(ガリー侵食とは、の説明文)	ウ 金網筋工の侵食堆積深度測定の説明文2行のすぐ下に、*ガリー侵食とは、の説明文を枠で囲って挿入する。	上のイ 植生調査の「*乗算優占度(MDR)とは、…」の説明文が枠で囲ってあるのと 同じ扱いにした方が違和感がなくなるため。	ご指摘のとおり枠で囲みます。	古館
12	3-5	「高標高域の人口林の土壌保全対策の実施」ア 状況、植生調査の5行目と9行目	④修正理由を参照願います。	1. 5行目「・・・植生高が植生高0.10～・・・」と「植生高」が重複。 2. 9行目「・・・植生高0.30m以上の調査区は・・・」において、「調査区」が主語では変なので、「箇所」を主語とすべきか。 以上、読みやすいように改善提案です。	5行目の「植生高」の重複は後の方を削除します。 御意見のとおり、6行目に使用している表現「箇所」に統一します。5行目「調査区」を「箇所」に修正します。9行目「調査区」を「箇所」に修正します。	田島
13	4-2	下から7行目「…の一部でICTを活用した調査を…」の所	「…の一部でICTを活用した調査**を…」として、脚注に「**ICTを活用した調査とは、」の説明文を付ける。	{ICTを活用した調査}がどのようなものか具体的に分かった方が良いと思う。	脚注に説明文を追記します。	古館
14	4-5	折れ線グラフの「平均」の青棒	④修正理由を参照願います。	この労働生産性グラフにおいて、「定性間伐」と「帯状・線状・列状間伐」の説明はあるが、「平均」の説明がない。 「平均」の個別の数値をみると「定性間伐」と「帯状・線状・列状間伐」の単純な相加平均でもない。また、「平均」がR1年度からしか記載がない。 以上より、「平均」は非常にわかりにくいので、きちんとその定義や計算式を記載するか、またはすべて削除するべきと思う。	グラフの凡例を修正する。	田島
15	6-1 資料編 P.11、13	・総括の下から4行目「西大友排水路」 ・資料編P.11 ア 生態系に配慮した河川・水路等の整備 表中 6 小田原市事業箇所 「西大友排水路」 ・資料編P.13 ア 生態系に配慮した河川・水路等の整備 表中 6 小田原市事業箇所 「西大友排水路」	「西大友水路」	小田原市内の水路で、「西大友水路」と「西大友排水路」が混在しているため「西大友水路」に統一してほしい (小田原市関係各課と調整済み)	総括の下から4行目の記載は錯誤のため削除(「3箇所を2箇所に修正」)。 資料編P.11およびP.13は御指摘の通り修正します。	瀬戸
16	6-1	ii 事業の評価(点検結果) 総括の上から4行目 西大友水路、姥川、道保川、恩曾川	西大友水路、姥川、道保川、善明川	6-4の表と照らしあわせると、恩曾川ではなく善明川だと思うのですが、確認をお願いします。	ご指摘の通り修正します。	岡田
17	6-1	ii 事業の評価(点検結果) 総括の最下行 整備前と比較して種類の増加がみられ、新たな種が確認された箇所があった	事業実施の前と後での種名リストの記載が必要と考えます。	1. 「種類の増加がみられ、」とあると、どのくらい増加したか興味がわきます 2. 「新たな種が確認され」とあるが、どんな種が出現したか知りたいと思います。 3. 事業前・事業後の比較をするため、種リストをのせることを希望します。ボリュームが大きくなるのであれば資料編でもよいと思います。	種類の具体例をP.6-1本文中に追記しました。	岡田
18	6番事業 全体	<次期施策にむけてのコメント> 資料編はもっと細かなデータを出していいのではないか。	—	種名リストや水質データなど、細かなデータを見たいと思う人はいるはずですが、言葉でまとめられると見えなくなってしまうものも、データをみるとわかることも多いものです。 本編はできるだけ簡略化して読みやすくすべきですが、別冊資料編もそれに合わせる必要はないと思います。資料編は、ボリュームが大きくなっていいのではと考えます。 (本点検結果での修正ではなく、次期計画に向けてのコメントです)	ご意見は参考とさせていただきます。	岡田

No	ページ	委員意見			対応(案)	委員
		修正箇所	修正内容	修正理由		
19	7-4 7-6	「5 参考(具体的な事業実施状況)」(1) 地下水保全計画の策定～ (4) 地下水モニタリング～(4) 地下水モニタリング 「地下水の現状及び令和6年度実施事業一覧」	④修正理由を参照願います。	1. P7-4とP7-6の表で、行政庁の記載順序を統一すべき。 ①秦野市→座間市とするのであればP7-6を修正。(逆であればP7-4を修正)。 ②足柄上地区で南足柄市→中井町→大井町→松田町→・・・の順序とするのであればP7-6を修正。 2. 真鶴町と箱根町を「足柄下地区」とまとめないのには何か理由があるので しょうか。	1. ①②ともにP7-6を御指摘の通り修正。 2. 足柄上地区(南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町)は、「足柄上地区地下水保全連絡会議」を組織し、協同して地下水保全対策を行っている。箱根町、真鶴町は個別に地下水保全対策を行っているため。	田島
20	7-6	表 座間市の行、右端の水質の欄 「PFOS及びPF0Aの暫定目標値を超過注2(テトラクロロエチレンについては基準超過なし)」	下段の秦野市と同じく、「基準超過なし注3(過去にテトラクロロエチレンを検出)」とするべきではないか	1. 座間市と秦野市は同じ状況のような気がするのですが、正しいでしょうか？ 2. さらに、注2と注3について、注2注3と列記するか、一つにまとめてはどうでしょうか？	座間市は本補助金を活用してPFOS及びPF0A(以下、「PFOS等」と略)の調査を行っており、PFOS等の暫定目標値超過を記載しています。 秦野市は本補助金を活用したPFOS等の調査を行っていないため、「基準超過なし」と記載しています。 この違いは、本補助金の活用状況に応じて、記述を分けたものです。 以上により、現行通りの記述とします。	岡田
21	9-5	排水処理事業「PAC処理」について	④修正理由を参照願います。	「PAC(ポリ塩化アルミニウム)処理」はそれ自体酸性の液体で、複数のメーカーのホームページによると、処理後の排水にp h影響(酸性化)のおそれがあるようです。 P9-5下段の「模式図」にはp h調整(中和)の表現がありませんが、p h調整(中和)をしているのであればその表記は必要かと思えます。	模式図中のPAC処理の左側に「アルカリ剤添加」と記載があります。	田島
22	10-3	上から6行目～8行目「また、河川整備……も把握している。」は文章が長く分かりにくい。	「また、……に高めることが明らかとなった。併せて、生物分類群ごとの反応の違いなども把握している。」	文章を途中で一か所切った方が分かり易くなる。	提案のとおり修正します。	古館
23	10-9	「(4)手入れ度評価手法」に掲載のある表の左端「収量比較」について。	④修正理由を参照願います。	「収量比較」の単語がこの表で唐突に出てくるので、単語の定義やその後のグラフにどのように関係があるのかを追記すべき。 (森林法施行規則(農林水産省令)等に記載あるが) また、P10-9上部の写真Aランクに、前後の文脈から「立木本数500本/ha」と追記するとわかりやすい。	提案の通り修正します(P10-8)。 P10-9上部の写真については、次の段落「(4)手入れ度評価手法」において解説されているため、写真への注釈記載は不要と整理します。	田島
24	番外	水源環境保全・再生実行5か年計画の各事業の進捗状況(令和6年度実績) (資料1-3) 3列目「進捗率(前年度との差)」の数値の記載方法。	④修正理由を参照願います。	例えば1水源の森林づくり事業の推進では「【確保】37.1%(+9.4%)」とあります。 この書き方だと、前年度は $37.1 - 9.4 = 27.7\%$ なのか、 $37.1 \div 1.094 = 33.91\%$ どちらから判別しにくい。 後者であれば特に修正の必要はないが、前者であれば37.1%(+9.4ポイント(pt))と記載すべきです。	県民会議資料への意見。今後作成する際はご指摘の通り修正します。	田島